

<今日の説教のポイント 出エジプト記 11～12 章>

1 「エジプト人の好意」(11:3, 3:21, 12:36)が持つ意味とは？

イスラエル人がエジプトから出て行くにあたり、聖書は3回も「主はこの民にエジプト人の好意を得させるようにされた」(3)と記します(その続き3節後半の「尊敬」にも注目)。ファラオの家臣たちが次々主を認めてファラオのかたくなさにあきれ果てる様子も記されています(9:20、10:7)。ですからこの表現は、ファラオは神様にかたくなであり続けたが(罪!)、エジプト人全体がそうではなかったことを示しています。大事なことは、いつ神様にかたくなであることを止めるかなのです。

2 「エジプト人の初子の死」に何を思う？ 神様はひどい？

しかしだとしても、ファラオのかたくなさのために無実な人間を殺す神様はひどいのではないのでしょうか？ どう考えればいいのでしょうか？ 長崎原爆の際に語られたある言葉を紹介しておきます。

NHKスペシャル「証言と映像でつづる原爆投下・全記録」より  
被爆者の治療を続けていた医学生の高橋清がある忘れられない光景について語っていました。「長崎の爆心は浦上の天主堂のすぐ近くなので、私が行った救護所でのほとんどの被爆者がクリスチャンだったのです。その方々が起き上がれない人もみんな助け合って起きて、夕方になるとお祈りをされるのです。それを見た時に、初めは本当に腹が立ちました。これほどむごいことを信者たちに与えることを許した神様がどうしてお祈りの対象になるのかと思ったんです。しかし後で考えてみると、あの人たちの祈りは、原子爆弾を作り落とした人も含めて、人間が犯した罪に対する謝罪の祈りだったんじゃないか、全てを失った人間の、最後の最高の尊厳を見たのではないかと思うようになりました。

神様を責める前に、自分も含む人間の罪とその罪をご自分の御子の死で赦された神様の愛を考えるようになるのが信仰者なのです。

3 「主がエジプトとイスラエルを区別しておられる」(11:7)とは？

この言葉も気になります。神様にえこひいきがあるのでしょうか？ ありません。聖書は全ての人間が神様の前に罪人であり、神様はその全ての罪人が神様に立ち帰ることを願っておられます(イザヤ書 19:19 以下。エジプトもアッシリアもイスラエルと並べられている)。ここではイスラエルは神に反抗する勢力によって攻撃を受ける民であり、神はその民を守ろうされ、それを見てご自身の下に生きる者が拡大することを願っての区別であり、よってそれを受け入れる者全てに開かれた区別で